

JICA Brazil Business Communication

～ブラジルの第一線で活躍するビジネスパーソンの皆様へ～

目次

1. 民間企業との連携

- (1) 民間連携事業の成果により、省エネにかかる政令が改訂！
- (2) 防災技術協力の R/D 締結！砂防ダム建設ノウハウを技術移転！

2. トピックス

- (1) 奮闘する日系病院へ、北岡理事長から熱いエール！
- (2) 千葉大×カンピーナス大、コロナ対策強化に向けた症例報告会
- (3) コロナ禍の高齢者を音楽でケア！草の根技協のオンライン署名式
- (4) 任期満了ボランティア 28 名による帰国報告会
- (5) サンパウロ州政府から市民防衛勲章を授与

【ご紹介】～フジタ・ニノミヤチェア（※）における明治大学共催短期講座～

7月より、明治大学との共催でオンラインでの「フジタ・ニノミヤチェア日本法短期講座」を開始し、おかげさまでブラジル国内10州以上、国外はルーマニア、米国、英国などからの参加者を含めて約300名の出席者を得ました！明治大学側の5回の講義に加え、8月下旬にはMUFGブラジルの支援により、サンパウロ大学法学部教授による講義を行い、更に日本側からは、山田彰特命全権大使、三井物産ブラジル佐藤真吾社長、JICAブラジル事務所長佐藤洋史による講義を行います。

（※）サンパウロ大学法学部において昨年度開始した日本開発研究プログラム

【コラム】～コロナに負けるな！一時退避帰国ボランティアから日系社会に向けた応援動画～

新型コロナウイルス（本紙では以降「コロナ」と呼称）の感染拡大により、3月末から日本国内にて待機中のJICA海外協力隊員が、日本国内での活動を紹介した動画や日系社会を応援する動画を作成していますので、以下の通りご紹介致します。

[野球ボランティアによる応援動画](#) / [上を向いて歩こう応援動画](#) / [パプリカ応援動画](#)

また、[JICAブラジル事務所 Facebook](#)では、「～コロナに負けない～ブラジルと日本をつなぐ隊員たちの活動」としてこれまで14エピソードをご紹介していますので、ご興味がある方はこの機会に是非一度アクセスしてみてください！

(2) 防災技術協力 R/D の締結！砂防ダム建設ノウハウを技術移転

ブラジルでは、2011年の土砂災害等をきっかけに、防災が国家の優先事業になっています。これまでの日伯の協力による多数の省庁、防災機関の連携強化及びマッピングや予警報など非構造物対策における技術移転の成果を、砂防ダム等の構造物対策につなげ、適切な防災体制を整える必要があります。

今般、新たな技術協力である「強靱な街作りのための土砂災害対策能力向上プロジェクト」の実施に向けた調整がなされ、ルイ・ペレイラ国際協力庁（ABC）長官、JICA ブラジル事務所所長の佐藤洋史及びアレシャンドレ・ルカス・ブラジル地域開発省（MDR）国家防災局長の間でプロジェクト討議議事録（Record of Discussion: R/D）署名に至りました。

プロジェクトでは、日本の協力のもと、ブラジル地域開発省が関連州市防災局他と連携し、砂防構造物の特性、施設配置計画、施工管理、維持管理方法の理解や、関連技術マニュアルの作成と普及、パイロット地域における砂防ダムの試行建設等を行う予定です。試行建設では、先行して実施された民間連携案件「鋼製透過型・ソイルセメント砂防堰堤普及促進事業」で、日鉄建材等日本企業より移転された砂防ダム建設のノウハウも適用されます。協力実施期間は、2020年度より5年間、協力サイトはブラジリア連邦区、リオデジャネイロ州ノバフリブルゴ市等を想定しています。



鋼製スリットダムの作動原理

2. トピックス

(1) 奮闘する日系病院へ、北岡理事長から熱いエール！

6月3日、JICA 理事長の北岡伸一とサンタクルス病院、サンパウロ日伯援護協会日伯友好病院、アマゾニア日伯援護協会アマゾニア病院の関係者とのオンライン会議を実施しました。コロナ禍における医療現場の最新状況を直接伺うと共に、北岡理事長から日系病院に対し励ましの気持ちをお伝えする機会となりました。本協議を踏まえ JICA ブラジル事務所では、上記3病院に対するコロナ感染対策強化にかかる協力を実施中です。7月24日にはフォローアップ会議を行い、医療機関向け特別助成制度、DX等による遠隔医療、人材育成等のニーズについて幅広く意見交換を行いました。次回は9月に日系7病院間にて、第4回日系病院連携協議会を開催する予定です。



日系3病院との会議の様子

(2) 千葉大×カンピーナス大、コロナ対策強化に向けた症例報告

JICA は日本医療研究開発機構（AMED）との連携により、2017年より地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS）「ブラジルと日本の薬剤耐性を含む真菌感染症診断に関する研究とリファレンス協力体制強化プロジェクト」をカンピーナス大学（UNICAMP）にて実施しています。コロナの影響拡大を踏まえ、今般、国立国際医療研究センター、千葉大学医学部付属病院、UNICAMP からなる国際臨床研究チームが発足し、6月3日、日伯医療従事者間にてコロナの最新症例や院内感染防止策等の知見を共有するための「第1回日伯合同新型コロナウイルス症例報告会」が開催されました。コロナ感染症による重症化の仕組みは解明されていない部分が多く治療法が未確定な状況下、第1回では両国より重症例が1例ずつ報告され、重症化リスクだけでなく院内感染を誘発する恐れのある人工透析患者の重症例を中心に活発な議論が行われました。その後、現在までに既に5回開催されていますが、毎回異なるテーマで実り多き議

論が行われており、今後も継続される予定です。出席者の反響も以下の通りご紹介させていただきます。

～ 症例会出席者からの反響 ～

- ・ COVID-19に関する疫学的研究は多数報告されているが、ICUでの集中治療を要する重症患者の臨床経過に関する報告は多くないので、救急救命現場での実臨床の貴重な情報を得ることができた。
- ・ 現場で試行錯誤を強いられている各医療従事者にとって、同じ第一線にいる同業者と実際に対話できることは、公開されている情報や文書（論文等）などでは決して得られない「実態」（結果だけでなくプロセスやミスや苦労点等も含む）を知る貴重な機会である。それこそが実践的に臨床現場に活用できる有用性の高い情報になる。
- ・ そもそも、異なる医療機関が、頻りに臨床情報を交換すること自体がレアケース。さらにそれが国際的な枠組みとなれば、画期的。地球規模の脅威であり、待ったなしの新型コロナウイルスへの対応としては、極めて有効。
- ・ 意見交換によって得られる科学的知見や考察は、ブラジルと日本の医療機関だけでなく世界的なニーズに貢献しうることが期待できる。極めて互恵性の高い枠組みである。
- ・ 新型コロナウイルスのパンデミック下においては、過重労働や自身及び同僚の感染への不安と恐怖、そして心無い差別等々と、日伯ともにメンタルを病み、離職する医療従事者が少なくなく、現場で踏ん張る医療従事者の疲弊は想像を超える。医療現場の崩壊は感染拡大を加速させ患者の救命率を下げることに直結する。同じ境遇の人たちと話し合えるだけでも、励ましになり、心の安らぎを得られる。

参考リンク：https://www.jica.go.jp/information/seminar/2020/20200603_01.html

(3) コロナ禍の高齢者を音楽でケア！草の根技協のオンライン署名式

コロナの状況を踏まえた初の試みとして6月16日、サンパウロ大学美術・科学・人文教育学部（EACH-USP：School of Arts, Sciences and Humanities）をJICAブラジル事務所と繋ぎ、草の根技術協力事業「サンパウロ市における音楽リハビリを活用した介護予防モデル構築」のミニッツ締結にかかるオンライン署名式が行われました。本ミニッツは、USP-EACH モニカ・サンシエス・ヤスタ学部長、日系社会研修「音楽リハビリプログラム」帰国研修員ホザ・チュウバチ教授、ゆらリズム社野崎健介社長、JICAブラジル事務所長佐藤洋史により署名が交わされました。本案件では、宮城県仙台市のゆらリズム社による音楽、体操、呼吸などの療法技術を通じて、サンパウロ市内の高齢者の健康促進を目指します。本案件は、昨年、日伯関係強化に資する人材育成のために創設された「フジタ・ニノミヤチェア」に続き、USPと締結した第二の連携事業に当たります。

参考リンク：<http://www5.each.usp.br/destaques/each-assina-acordo-de-cooperacao-com-a-japan-international-cooperation-agency/>



オンライン署名式の様子

(4) 任期满了ボランティア 28 名による帰国報告会

6月29日から4日間にわたり、7月に任期を満了する JICA 日系社会海外協力隊員 28 名の活動最終報告会を、Zoom を使用したオンライン形式で実施しました。オンラインでの報告会は初めての試みでしたが、大きなトラブルもなく、全てのプログラムを終了することができました。報告会には在ブラジル日本国大使館、在サンパウロ総領事館、在マナウス総領事館からのご来賓を頂き、初日には山田特命全権大使から隊員たちへの激励の言葉も頂きました。隊員による最終報告では活動上の悩みや成果だけではなく、配属先や関係者の方々への感謝の気持ちも多く述べられていたことが印象的でした。配属先関係者の皆様の隊員への温かいご支援に深く感謝致します。

(5) サンパウロ州政府から市民防衛勲章を授与

8月3日、サンパウロ州政府バンデイランテス宮殿にて、同州市民防衛局長 Walter Nyakas Júnior 氏（帰国研修員）より、これまでの協力への感謝として、JICA ブラジル事務所長に対して、市民防衛勲章が授与されました。ソーシャルディスタンス確保のため、一定の制限下での式典となりましたが、局長は JICA との過去の協力を想起しつつ、同局から 30 名を超える職員が参加した防災分野における研修の協力に対し、感謝の意を述べました。



州政府市民防災局長より勲章を授与

以上

本紙では、ウィズコロナ、ポストコロナに向けて少しでも明るいお知らせが届けられるよう、内容の充実を図る所存でございます。つきましては、ご意見、ご要望等ございましたら、下記連絡先までご連絡いただければ幸いです。

引き続き、どうぞ宜しくお願い致します。

【問い合わせ・連絡先】

国際協力機構（JICA）ブラジル事務所

担当：間瀬 将成

電話：(11)-3251-2655 (ex. 105)

Email：Mase.Masanari@jica.go.jp